



ゲストスピーチ



李 錦淑 様

私は中国の黒龍江省より日本に来て、七年半になります。今は福島大学の二年生です。卒業論文は国際課税をテーマに書いています。私は日本を愛しています。日本の方々に助けをいただけて今までやってこれました。13億人の中国人の中で日本のことをよく言わない人は、ほんの一部で、私のように日本の経済や文化を知りたいと思っている人は沢山います。朝鮮民族では日本語授業があつて、私も中学から日本語を勉強してきました。それは日本に来るきっかけにもなりました。高校卒業後、日本の企業で仕事をしましたこともあります。ほかの民族の方々でも、知らないで変な気持ちを持っている人もいますが、日本に来て日本や日本人を知れば、日本の事が好きになる人は沢山いると思います。微力ながら、これから国に帰って、ロータリークラブや日本の良さを出来る限り広めたいと思っています。

《反日教育について》

中国で反日教育は受けてはいなかったと思っています。外国語として日本語を教えることが政府によって認められていたことからそう思います。どこの国でも良い所と悪い所があると思います。私は中国へ帰って日本の良い所をアピールしていきたいと思っています。

編集担当 高橋 正一

第14回例会

平成18年10月11日(水)
サンパレス福島

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 ロータリーソング 奉仕の理想
- 3 四つのテスト
- 4 来訪者の紹介と会長挨拶
- 5 10月度の奨学金授与
米山奨学生 李 錦淑 様
- 6 インターアクトクラブからのお願い
- 7 閉会点鐘

本日のお客様

福島西ロータリークラブ 金子 興志邦 様

会長挨拶

齋藤 ミヨ会長



先週は、秋雨前線により強風、大雨と県内にも大変な被害を及ぼし通過致しました。自然の力は施設能力を超える可能性が常にあることを踏まえて備えが必要であることを痛感致しました。

先週は、福島河川国道事務所所長さんのスピーチを頂きましたが、河川整備の状況や、東北中央自動車道整備、又それに伴う災害整備と広域ネットワークの形成等、幅広い分野の職業奉仕であることを実感致しました。

10月の誕生日の皆様と一緒にお祝いを頂いたことをとても喜んでいらっしゃいました。ほんのささいなことでしたが、相手も喜び、クラブの私達もホットな

気持ちになりました。

さて、米山月間に当り今週は米山奨学生の、李 錦淑様のスピーチをお願い致しております。そこで、米山記念奨学会について、少々お話ししたいと思います。

米山奨学事業についてですが、1996年度をピークに減少しましたが、9年振り下げ止まりとなったことが明るいニュースとなっております。そしてこの奨学会は、日本独自の制度でございます。今まで104ヶ国から、12,706人の外国留学生を支援しております。

ただお金を出すだけでなく、ロータリーとの触れ合いの中から人間性を育てていただけることを願っております。

2530地区におきましても、150名を超える奨学生を受け入れております。私たちの願いは、母国の発展や日本との橋渡し、世界平和等に活躍していただきたいと思っています。

カウンセラーの福田順一会員には、種々御苦勞頂きますが国際親善と理解を深め、一人でも多くの貢献者を育てていくことが奨学事業の目的であると思います。

それでは、スピーチを楽しみにしております。



《ふるさとについて》

黒龍江省のハルピンの氷祭りは有名です。石炭などの鉱物が採れ、農業が発展しています。医療レベルは低いと思います。教育レベルもまだまだですが、最近では外国語やパソコンの授業があつて前よりはレベルが上がったと思います。少数民族の中では200万人の朝鮮民族は、結構レベルが高いほうだと思います。

《中国からの海外渡航について》

日本からはパスポート一つで海外に割と簡単に出られますが、中国では、一度海外に出ると帰って来ないことが多いので、厳しい規制があつて簡単には出られません。また、費用もかかるのでお金に余裕がある人か、お金を借りなければ海外へ行けなかったのですが、最近では余裕がある人が増えて、純粋に勉強のために海外に行く人が増えていると思います。

